



さとうみずほ (生活者ネットワーク)

1. 子どもの養育環境を守るためのDV・虐待避難家庭への支援
2. 住所秘匿者への支援の確実な提供

問 DV(配偶者暴力)・虐待から避難した家庭への支援について伺う。

答 面前DV(子どもの前で行われるDV)を含む精神的DVや虐待は、子どもの成長に深刻な影響を及ぼすものと認識している。相談者に寄り添いながら、こども家庭センターやTAMA女性センター、児童相談所等の市内外の関係機関と連携し、必要な支援を行っている。

問 避難後は実質的なひとり親世帯となるなど、戸籍上と異なる家族形態となる場合がある。経済的にも厳しい状況にあり、生活実態に即した支援を行うべきではないか。

答 市が主体となる事業については、生活実態に即した形での支援を行っている。

問 住所秘匿者(支援措置利用者)への支援は確実に届いているのか。

答 書店利用券事業において送付漏れがあった。今後は制度の趣旨に沿った運用を徹底し、対象者の確認を行いながら、必要な行政サービスが漏れなく届くよう取組む。



小林憲一 (日本共産党)

1. 交通不便地域に公共交通の恩恵を!
2. 保育園の待機児解決をどうすべきか
3. 統一協会・研修施設撤回の一手を

問 交通マスタープランの「どこに暮らしていても…どこへでも快適に移動できる」の基本理念は、関戸3丁目、連光寺1・3・6丁目、聖ヶ丘5丁目などでは「画に描いた餅」ではないか。いかがか。

答 「バス路線がない」「バス停が遠い、坂が多く…バス路線が十分にカバーしきれないエリアもある」と認識している。

問 聖蹟桜ヶ丘駅周辺での保育園や学童クラブの待機児問題をどう解決するのか。

答 保育園や学童クラブを増やすことは考えていないが、待機児問題には丁寧に対応する。

問 統一協会の研修施設建設計画の白紙撤回の詰めの一手を求める。同時に街づくり条例の運用上の課題を検証し教訓とすべきだ。いかがか。

答 あと一歩まで追いつめる力となった市民運動を高く評価する。今後も時機を捉えた動きを取り続けていく。街づくり条例による規制はなかなか難しい。



石山ひろあき (自民党)

1. 今後、自治会活動を持続可能にしていくために
2. 聖蹟桜ヶ丘について

問 自治会はメリットで加入するものではない。顔が見える関係や災害時の重要性を周知し加入を促してはどうか。

答 お祭りなどで防災・防犯対策を絡めて若い世代が楽しく関わりやすいように取組む。

問 蛍光灯の製造が終了することから集会所の照明をLED照明器具に交換をする際、市側から当初の申し合わせに従い自治会で費用負担するよう求められているが、市と自治会で認識が大きく異なる。市の考えを伺う。

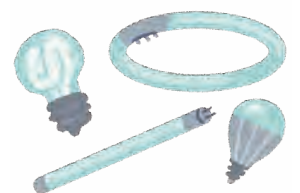
答 昭和40年頃の申し合わせにより梁・屋根等の躯体部分は市で負担するが小修繕に関わる照明器具の交換は自治会で負担していくと周知してきた。

問 多摩中学校近隣の旧市営住宅跡地について、地元からバスケットゴール設置など声があるが今後の活用を伺う。

答 地域の声に対応し、民間活力の導入も視野に入れる。

問 5月から多摩第一小学校で実施の放課後子ども教室だが今後も保護者の声を聞き対応していただけるのか伺う。

答 引き続き保護者の声を聞きより良い運営をしていく。



おにづかこずえ (たま結の会)

誰もが地域で孤立しないための居場所づくりについて

問 市長所信表明にある朝の見守りの検討について、市はどのような場所を使う予定か。また、考えられる対応性を伺う。

答 現状ではボランティアや担い手の確保を含め、先行例なども参考に検討していく考えである。

問 子ども食堂の数と補助金の金額を伺う。

答 子ども食堂は23カ所、開催日数により年間48万円から206万円、人件費は対象外となる。使い切れない場合は返金になる。

問 地域包括支援センターの地域の見守りの機能を強化とはどのような取組みか伺う。

答 事務職員専任2名の配置により、相談訪問の対応を増やすことができるようになる。

問 老人クラブの加入状況と今後の課題をどう考えているか伺う。

答 会員数は合計888人、加入者の減少が進んでいることが課題である。

